

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

(28)

高校二年の夏、初めて五葉山に登った。そこには、遠景に感動する石川啄木の世界よりも、現実を直視する宮沢賢治の世界が広がっていて、一種の意識革命と言ってもいい体験が待っていた。友人と二人、通称・黒岩まで、途中何度も座禅を組み、心酔したことが。二人はどこまでも無垢だった。

爾来、何度五葉山に登ったことか。日枝神社への元朝詣だけでも連続二十六回は登っている。友は、私が独り忘日に花を捧げることを忘れない人になってしまった。顧みるに、山が私たち

を惹きつけて離さない魅力のひとつに、そこには「ロマン」があるからだと思う。かけがえのない友との友情、そして愛情。日常生活では体験できない純真な心、そして哄笑。ちよびり不可思議な世界等……。

だが、第四峰から南西に延びる稜線は山容を一変させる。花崗岩の巨岩が山稜を覆い尽くす険し

が微かに眺望できる。北益々巨岩に覆われる。高上山系第二の高峰にふさわしい、なだらかな山容が登山者を優しく迎えてくれる。

【執筆者プロフィール】大船渡市猪川町在住、六十六歳。ヨーロッパを登山。年間を通じて五葉山に登山している。「じゃくなげ山想会」代表。

「五葉山ピラミッド」

大船渡市猪川町 小笠原 幸男

い岩稜地帯となる。それは、古代より多くの修験者や文人碩学の鍛錬修行の場であった名残を今にとどめている。

【執筆者プロフィール】大船渡市猪川町在住、六十六歳。ヨーロッパを登山。年間を通じて五葉山に登山している。「じゃくなげ山想会」代表。

『神祕の日本』の著者・酒井勝軍によって調査されたという五葉山ピラミッドの石組みも、きつと神祕とロマンの世界に足を踏み入れさせてくれるに違いない。

第四峰に近づくと、い岩稜地帯となる。それは、古代より多くの修験者や文人碩学の鍛錬修行の場であった名残を今にとどめている。

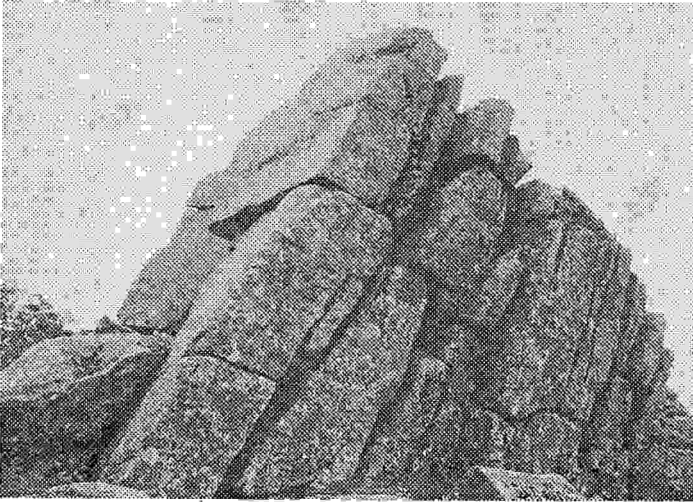
『神祕の日本』の著者・酒井勝軍によって調査されたという五葉山ピラミッドの石組みも、きつと神祕とロマンの世界に足を踏み入れさせてくれるに違いない。

『神祕の日本』の著者・酒井勝軍によって調査されたという五葉山ピラミッドの石組みも、きつと神祕とロマンの世界に足を踏み入れさせてくれるに違いない。



第四峰に近づくと、い岩稜地帯となる。それは、古代より多くの修験者や文人碩学の鍛錬修行の場であった名残を今にとどめている。

『神祕の日本』の著者・酒井勝軍によって調査されたという五葉山ピラミッドの石組みも、きつと神祕とロマンの世界に足を踏み入れさせてくれるに違いない。



通称「奥の院」と呼ばれる謎の石組み。ピラミッドの祭殿の跡か？